本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。



CASIO

P

電波時計

2298＊JA

取扱説明書

2298

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本誌に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。
なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

◆本機の特長◆

● 正確な時刻を表示（電波時計）

日本の標準時刻をのせた長波標準電波 JJY(40kHz)を受信して、正確な時刻を表示します。

● テレメモ

最大 150 件の名前＆電話番号を記憶します。

● 計算機能

8 桁の加減乗除、四則定数、自乗、べき乗、概数計算ができます。

● ワールドタイム

世界 27 都市（29 タイムゾーン）の時刻がわかります。

● アラーム

セットした時刻に電子音を鳴らすことができます。

● ストップウオッチ

1/100 秒単位で 23 時間 59 分 59 秒 99 まで計測できます。

安全上のご注意

絵表示について

この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています（左の例は感電注意）。



⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています（左の例は分解禁止）。



● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）。

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。



※本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。

電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

⚠注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

①金属・皮革に対するアレルギー
②時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



データ控えを作ってください

記憶させた内容は、備忘録やノートなどに書くなどして、本機とは別に、必ず控えを残してください。
本機の故障、修理や電池消耗により、記憶内容が消えることがあります。



⚠注意

ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行なってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

データの保護について

●本機は電池が消耗しても記憶させた内容が保持されるメモリー（EEPROM）を採用しておりますが、以下の場合には、記憶内容が消えたり、変化することがありますのでご注意ください。
- 本体を分解したとき
- 故障・修理のとき
- 極度の静電気や衝撃を与えたとき
- 極端な外的環境下（特に低温下）で使用したとき
- 電池交換の方法をまちがえたとき

●「万一の事故」、「故障・修理」、「腕時計本体の紛失・盗難」などのときのために、データは必ず「名刺など元になるものを残しておく」か、「別のノートなどに控えておく」などして、控えを残しておいてください。

※付属の備忘録を利用すると便利です。

＜お願い＞

電池が消耗すると、"**BATT**" マークが点滅し、メモリーしたデータを見ることができなくなります（38 ページ参照）。"**BATT**" マークが点滅するときは、お早めに電池交換されることをおすすめします。なお、電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーション（裏表紙に記載）にお申し付けください。

本機を使用したこと、および故障・修理などによりデータが消えたり、変化したことで生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

ライト点灯機能について

ストップウオッチモード以外で Ⓓ ボタンを押すと文字板が約２秒間発光し、暗いところでも表示を見ることができます。



＜注意事項＞

●直射日光下では発光が見えにくくなります。

●発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。

●発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のためELパネルが振動するときの音で、異常ではありません。

目　次

安全上のご注意 1

データの保護について 5

ライト点灯機能について 5

操作のしくみと表示の見方 8

電波時計について 10
- 電波時計とは …… 10
- 標準電波 …… 10
- 電波の受信範囲の目安 …… 11
- 使用場所について …… 11
- 受信方法について …… 12
- 自動受信のオン／オフ …… 13
- 電波タイプの切り替え …… 14
- 受信に関するご注意 …… 15
- こんなときには …… 15

テレメモの使い方 16
- データのサーチ …… 16
- データの入力 …… 18
- データの修正 …… 21
- データの消去 …… 22
- 残りメモリー数の確認 …… 23

計算機能の使い方 24
- 基本計算 …… 24
- 定数計算 …… 24
- 計算途中の訂正のしかた …… 25
- 操作確認音のオン／オフ …… 25

ワールドタイムの使い方 26
- 都市のサーチ …… 26
- サマータイムの設定／解除 …… 26
- ワールドタイム都市一覧表 …… 27

アラーム・時報の使い方 28
- アラーム時刻のセット …… 28
- アラーム・時報のオン／オフ …… 29

ストップウオッチの使い方 30
- 計測のしかた …… 30

ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方 31
- セット内容 …… 31
- セットのしかた …… 31

製品仕様 35

ご使用上の注意 36

電池交換について 38

お手入れについて 40

操作のしくみと表示の見方

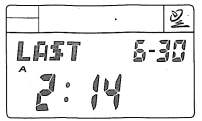
※各モードでボタン操作をした後 Ⓑ ボタンを押すと、直接時刻モード（カレンダー表示）に戻ります。
※操作確認音のオン／オフについては、25 ページの「操作確認音のオン／オフ」をご覧ください。

時刻モード

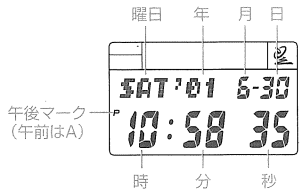


●受信確認

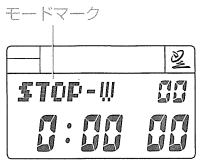
Ⓒボタンを押すと、前回受信した時刻と月日を表示します。
※戻すにはもう一度Ⓒボタンを押します。



●表示の見方



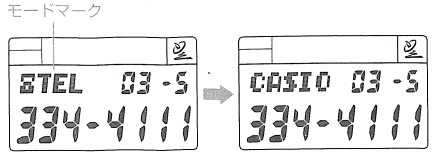
ストップウオッチモード



P-30

Ⓑ

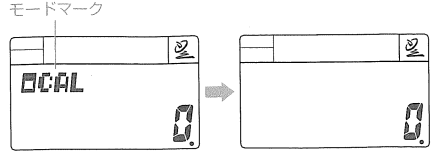
テレメモモード



P-16

Ⓑ

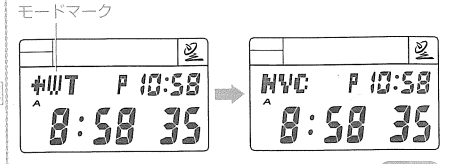
計算モード



P-24

Ⓑ

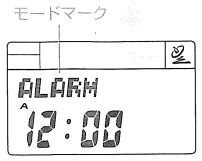
ワールドタイムモード



P-26

Ⓑ

アラームモード



P-28

Ⓑ

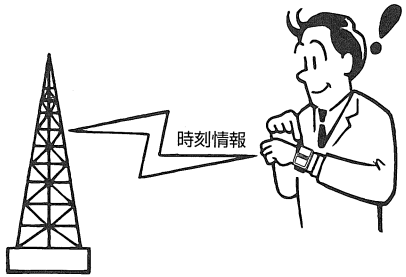
電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報〔日本標準時〕をのせた標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。
本機は長波標準電波 JJY（40kHz）を受信します。

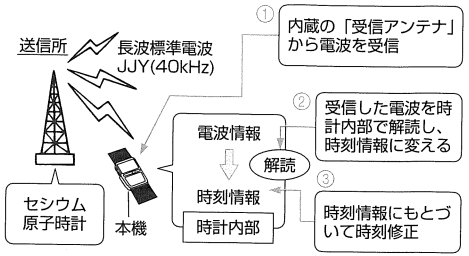
★標準時とは

日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。



■ 標準電波

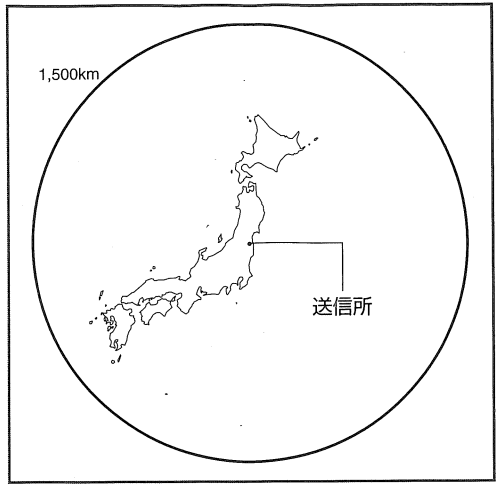
標準電波は総務省通信総合研究所（CRL）が運用しており、長波標準電波は福島県田村郡おおたかどや山の標準電波送信所から送信されます。
この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。



■ 電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ1,500km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。
また、受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。



■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

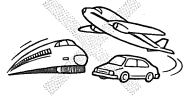
※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）



高圧線、架線の近く



乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）



家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコンなど）



電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）



金属板の上、山の裏側…など

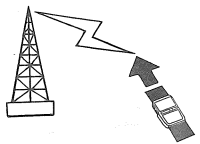
受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。
1 自動受信（午前２・４・６時に自動受信します）
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信前の準備



受信しやすくするために、本機を腕からはずし、時計上部（12時位置）を電波送信所方向に向けます。
●時計上部が電波送信所方向（11ページ参照）に対してまっすぐ向いていないと、受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ４～11分です。

●手動受信

時刻モードのとき

Ⓒ ボタンを約２秒間押し続けます



確認音が鳴り、受信を開始します。
受信中表示“⎍”を表示します。

★受信を中止するときは

Ⓐ ボタンを押します

※Ⓑ ボタンを0.5秒以上押し続けると、受信を中止して、テレメモモードに切り替わります。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正します。
※受信マーク“⎍”が点灯します。

★受信が失敗すると

時刻修正は行なわれず、手動受信のときは“ERR”を表示します。

●受信インジケーター

受信中は受信状態によってインジケーターが変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

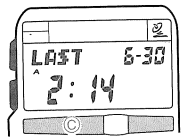
●受信インジケーターは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓒ ボタンを押します

受信により最後に修正した日時を表示します。
※時刻表示に戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを押します。

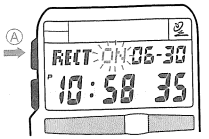


■自動受信のオン／オフ

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



“ON”または“OFF”が点滅します。

2. 切り替える

入力キーのいずれかを押します



入力キーのいずれかを押すごとに、オンとオフが切り替わります。

3. 切り替えを終了する

Ⓐボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※自動受信のオン／オフで表示を点滅させたまま２～３分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

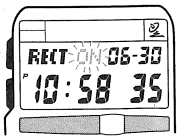
■電波タイプの切り替え

日本においてサマータイムが実施されたときに、標準電波のコード変更が行なわれることがあります。
本機は、コード変更が行なわれたときでも対応できるよう、２種類のタイプを切り替えることができます。
※コード変更の内容によっては、電波タイプを切り替えても正しく修正されないこともあります。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

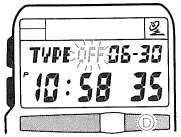
Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



自動受信の切り替えになります。

2. 電波タイプ切り替えにする

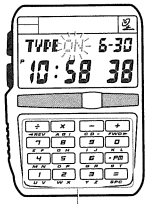
Ⓓボタンを押します



“ON”または“OFF”が点滅します。

3. 切り替える

入力キーのいずれかを約２秒間押し続けます



入力キーのいずれかを押し続けるごとに、オンとオフが切り替わります。

入力キー

4. 切り替えを終了する

Ⓐ ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※電波タイプの切り替えで表示を点滅させたまま２～３分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

●サマータイムが実施されていないときは、電波タイプを“OFF”のままお使いください。
●サマータイムが実施されたときの電波タイプについては、カシオテクノ・サービスステーション（本誌裏面に記載）にお問い合わせください。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードおよびワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●自動受信を行なう午前２時・４時・６時から15分前後は、ボタン操作を行なわないでください。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本で送信されている電波に合わせて設定されていますので、日本国外および日本の電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中はアラームなどの電子音は鳴りません。

●本機の電波受信によるカレンダー修正機能は2039年までですので、2040年以降は受信してもエラーとなりますが、カレンダー機能は2099年までご使用になれます。

■こんなときには

手動受信ができない

原因：時刻モード以外のときは、手動受信はできません。
処置：手動受信は時刻モードで行なってください。

「受信ON」に設定しているのに“📶”マークが消えている

原因：“📶”マークは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。
一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません（毎日午前３時に消えます）。
自動受信時に時刻モードおよびワールドタイムモード以外になっていた。
処置：電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。
「受信成功」しやすい環境で使用してください。
自動受信を行なうときは、時刻モードまたはワールドタイムモードにしておいてください。
また、手動で時刻修正をすると、“📶”マークは消えます。

テレメモの使い方

テレメモとは名前８文字、電話番号 12 桁を最大 150 件までメモリーできる機能です。
データを入力すると、名前順に並び替わりますので、データを探すときも便利です。

テレメモモードに切り替えると、前回最後に見たデータを表示します。

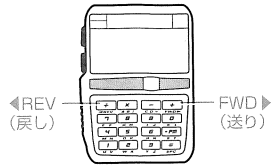


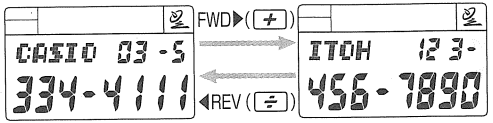
※名前が７文字以上のときは、右から左に流れるスクロール表示となります。
※テレメモモードのまま2〜3分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

■ データのサーチ

●シーケンシャルサーチ

テレメモモードで◀REV(÷)キーまたはFWD▶(+)キーを押すごとに、名前順に表示されます。
※いずれのキーも、押し続けると早送りができます。



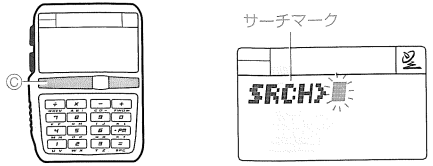


●イニシャルサーチ

1. イニシャルサーチに切り替える

© ボタンを押します

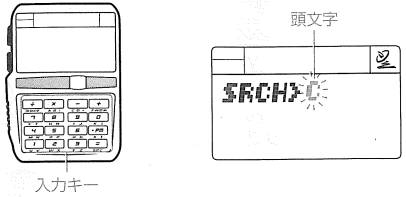
テレメモモードでデータを表示しているときに©ボタンを押すと、イニシャルサーチに切り替わります。



2. イニシャル（頭文字）を入力する

入力キーを押します

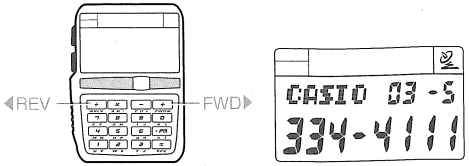
入力キーで探したい名前の頭文字(１文字)を表示させます。



3. サーチする

◀REV キーまたは FWD▶キーを押します

同じ頭文字の先頭にある名前が表示されます。
※探したい頭文字の名前がない場合は、アルファベット順で次の頭文字の名前が表示されます。

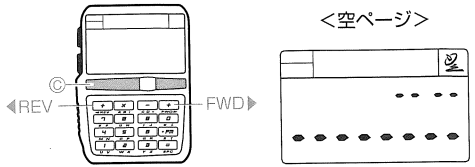


以後、◀REV キーまたは FWD▶キーを押すごとに、名前順に表示されます。
※いずれのキーも、押し続けると早送りができます。

■データの入力

1. 空ページを探す

Ⓒ ボタンを押してイニシャルサーチに切り替え、◀REV キーまたは FWD▶キーを押します

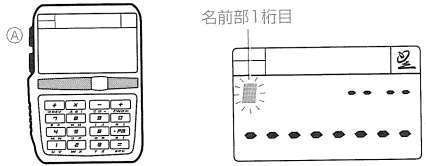


データが 150 件すべて入力してあるときは、空ページの変わりに「◆FULL」と表示されます。

2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます

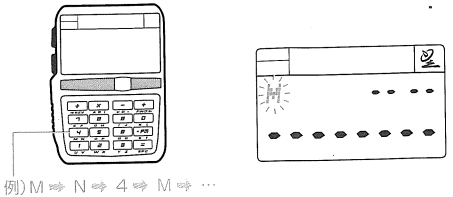
名前部１桁目が点滅します。



3. 名前を入力する

入力キーを押します

入力キーを押すと、キーに印刷されている文字が順番に表示されます。



※入力できる文字はA～Z（アルファベット）、0～9（数字）、：（コロン）、－（ハイフン）、.（ピリオド）、スペースです。

入力文字一覧

	AB:	CD-	
EF7	GH8	IJ9	KL0
MN4	OP5	QR6	ST.
UV1	WX2	YZ3	スペース

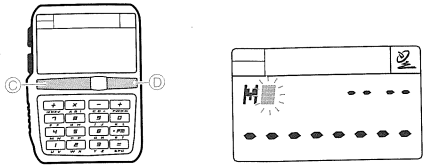
※アルファベットO（オー）を数字の0（ゼロ）で代用するなど、形の似た文字を使うと正しく並び替えされませんのでご注意ください。

4. 桁を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

Ⓓ ボタンを押すごとに入力箇所（点滅箇所）が右に移動します。なお、Ⓒ ボタンを押すと、入力箇所が左に移動します。

※Ⓒ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



入力キーを押して文字を表示させ、Ⓓ キーまたは Ⓒ キーを押して入力箇所を移動させる操作を繰り返し、名前を入力します。

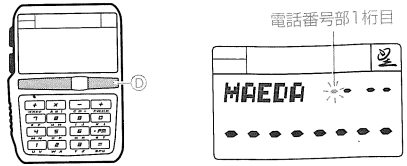
5. 電話番号の入力に切り替える

Ⓓ ボタンを押します

Ⓓ ボタンを何回か押して、電話番号部１桁目を点滅させます。

※Ⓒ ボタンを押して戻すこともできます。

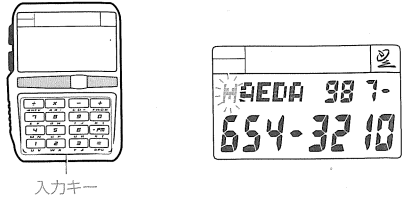
※Ⓒ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



6. 電話番号を入力する

入力キーを押します

電話番号 12 桁以内を続けて押します。

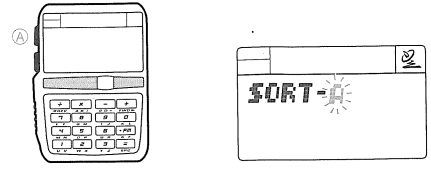


※入力できるのは０～９（数字）、－（ハイフン）、スペースです。
※入力キーを押すと、入力箇所（点滅箇所）が自動的に進みます。
※Ⓓ ボタンを押すと次の桁に進み、Ⓒ ボタンを押すと前の桁に戻ります。

7. 入力を終了する

Ⓐ ボタンを押します

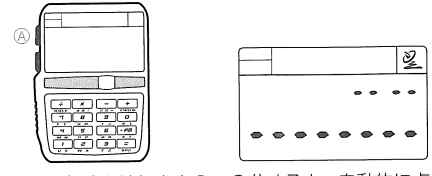
SORT（ソート）表示になり、名前順にメモリーされます。メモリー後、新規入力状態になりますので、連続して入力することができます。



8. すべての入力を終了する

もう一度 Ⓐ ボタンを押します

空ページが表示されているときに、Ⓐ ボタンを押すと、点滅が止まります。

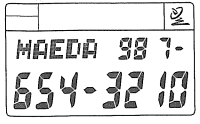


※入力中に点滅させたまま２～３分すると、自動的に点滅が止まり、入力した箇所までがメモリーされます。

■ データの修正

1. 修正したいデータを探す

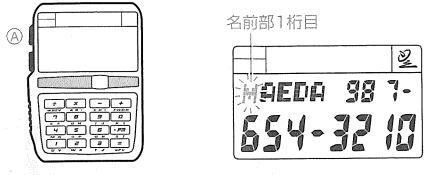
イニシャルサーチまたはシーケンシャルサーチで探します



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます

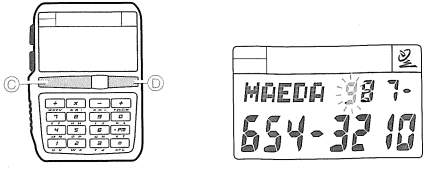
名前部１桁目が点滅します。



3. 修正箇所を選ぶ

Ⓓ ボタンまたは Ⓒ ボタンを押します

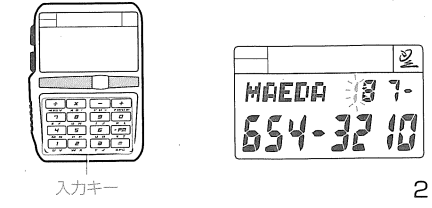
Ⓓ ボタンを押すごとに入力箇所（点滅箇所）が右に移動し、Ⓒ ボタンを押すごとに、入力箇所が左に移動します。
※Ⓒ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



4. 修正する

入力キーを押します

入力キーを押して、修正したい文字または数字を表示させます。

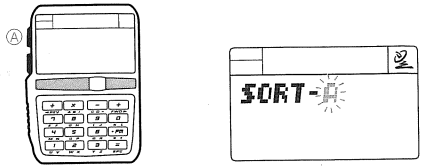


入力キーを押して文字を表示させ、Ⓓ ボタンまたはⒸボタンを押して修正箇所を移動させる操作を繰り返し、データを修正します。

5. 修正を終了する

Ⓐ ボタンを押します

名前を修正した場合はSORT（ソート）表示になり、名前順にメモリーされます。



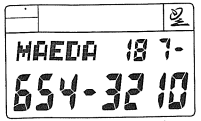
※修正中に点滅させたまま２～３分すると、自動的に点滅が止まり、修正した箇所までが修正されてメモリーされます。

■ データの消去

データは１件ごとに消去することができます。

1. 消去したいデータを探す

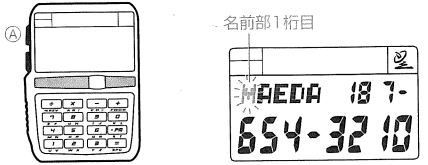
イニシャルサーチまたはシーケンシャルサーチで探します



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます

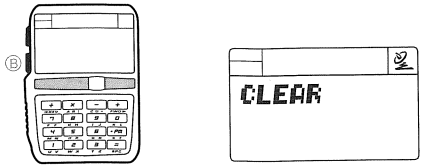
名前部１桁目が点滅します。



3. 消去する

Ⓑ ボタンを約２秒間押し続けます

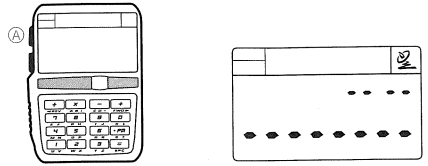
“CLEAR”と表示後、空ページとなり、新規入力ができます。



4. 消去を終了する

Ⓐ ボタンを押します

点滅が止まります。



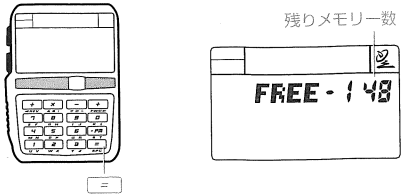
※消去中に点滅させたまま２～３分すると、自動的に点滅が止まります。

■ 残りメモリー数の確認

テレメモードで、

[=] キーを押します

[=] キーを押している間、残りメモリー数を表示します。



計算機能の使い方

計算は計算モードで行ない、置数、答えとも８桁（負数７桁）で数式通りに計算できます。[+]、[−]、[×]、[÷]の各キーを押すと、それぞれ計算過程（＋、−、×、÷）が確認できます。

■基本計算

数式通りに計算できます。
置数のクリアーは Ⓒ ボタンを１回押します。続けて Ⓒ ボタンを押すとオールクリアーとなります。

例　題	操　作	表示窓
53＋123−63＝113	53 [+] 123 [−] 63 [=]	＋53. −176. 113.
2.3×6×5.2＝71.76	2.3 [×] 6 [×] 5.2 [=]	71.76
89÷56＝1.5892857	89 [÷] 56 [=]	1.5892857
963×(23−56)＝−31779	23 [−] 56 [×] 963 [=]	−31779.
(56×3−89)÷5.2＋63 ＝78.192307	56 [×] 3 [−] 89 [÷] 5.2 [+] 63 [=]	78.192307
123456×741852 ≒915億86080000	123456 [×] 741852 [=]	915.8608E 億の位　エラー

※エラー(E)表示後、Ⓒボタンを押すとエラーが解除されます。
もう一度Ⓒボタンを押すと、表示されている数値が消去されます。

■定数計算

置数の後に [+]、[−]、[×]、[÷] の各キーを2回押すと、その数が定数としてセットされ（Kを表示）、同じ数を使った計算が簡単にできます。

例　題	操　作	表示窓
12＋23＝35	23 [+] [+] 12 [=]	[+] K 35.
45＋23＝68	45 [=]	[+] K 68.
7−5.6＝1.4	5.6 [−] [−] 7 [=]	[−] K 1.4
2−5.6＝−3.6	2 [=]	[−] K −3.6
2.3×12＝27.6	12 [×] [×] 2.3 [=]	[×] K 27.6
4.5×12＝54	4.5 [=]	[×] K 54.
45÷9.6＝4.6875	9.6 [÷] [÷] 45 [=]	[÷] K 4.6875
78÷9.6＝8.125	78 [=]	[÷] K 8.125
17＋17＋17＋17＝68	17 [+] [+] [=] [=] [=]	[+] K 68.
$(2.3)^4$ ＝27.9841 (または“ $(2.3^2)^2$ ”として→	2.3 [×] [×] [=] [=] [=]	[×] K 27.9841

■計算途中の訂正のしかた

計算途中に数値を押し間違えたときは、Ⓒボタンを押してから正しい数値を入力します。

※ⒸボタンをⒸ押すと、そのとき表示されている数値が消去され、それまでの計算に支障なく引き続き計算が行なえます。



また、[+]、[−]、[×]、[÷] キーを押し間違えたときは、引き続き正しいキーを押してください。

計算が終わりましたら、Ⓑ ボタンを押して時刻モードに戻します。

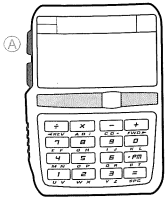
※計算モードのまま６～７分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

■操作確認音のオン／オフ

計算モードのときに

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます。

押し続けるごとに操作確認音のオンとオフが切り替わります。



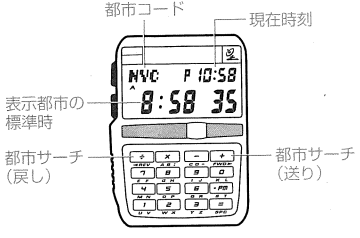
※操作確認音とはモードを切り替えたときや、計算時のキー操作を行なったときに鳴る電子音です。

ワールドタイムの使い方

ワールドタイムは世界27都市（29タイムゾーン）の時刻を知ることができる機能です。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市が表示されます。
以後、◀REV（－）キーまたはFWD▶（＋）キーを押すごとに、都市コードとその都市の標準時を表示します。
※いずれのキーも、押し続けると早送りができます。



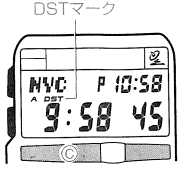
ワールドタイムはホームタイムに連動していますので、選択都市の標準時が違っているときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。
※セットについては31ページをご覧ください。

■サマータイムの設定／解除

サマータイムは各都市ごとに設定できます。

Ⓒボタンを約2秒間押し続けます

“DST”マークが点灯します。



※サマータイムを解除するときも、Ⓒボタンを約2秒間押し続けます。

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
サマータイムの採用時期は都市により異なりますし、採用していない都市もありますのでご注意ください。

■ワールドタイム都市一覧表

都市コード	都市名	時差	同一標準時の他の都市	都市コード	都市名	時差	同一標準時の他の都市
----	----	−11	パゴパゴ	CAI	カイロ	+2	アテネ、ヘルシンキ、ベイルート
HNL	ホノルル	−10	パペーテ	JRS	エルサレム		
ANC	アンカレジ	−9	ノーム	JED	ジッダ	+3	クウェート、モスクワ
LAX	ロサンゼルス	−8	サンフランシスコ、ラスベガス、シアトル	THR	テヘラン	+3.5	
				DXB	ドバイ	+4	アブダビ
DEN	デンバー	−7	エルパソ、エドモントン	KBL	カブール	+4.5	
CHI	シカゴ	−6	ヒューストン、ダラス、メキシコシティ	KHI	カラチ	+5	
				DEL	デリー	+5.5	
NYC	ニューヨーク	−5	モントリオール、マイアミ、ボストン	DAC	ダッカ	+6	
				RGN	ヤンゴン	+6.5	
CCS	カラカス	−4	サンティアゴ	BKK	バンコク	+7	ジャカルタ、ハノイ
RIO	リオデジャネイロ	−3	サンパウロ、ブエノスアイレス	HKG	ホンコン（香港）	+8	シンガポール、クアラルンプール、北京、台北、マニラ
----	----	−2					
----	----	−1	アゾレス諸島	TYO	東京	+9	ソウル、平壌
GMT		±0	<グリニッジ標準時>	ADL	アデレード	+9.5	
LON	ロンドン	±0	ダブリン	SYD	シドニー	+10	グアム
PAR	パリ	+1	ローマ、マドリード、フランクフルト	NOU	ヌーメア	+11	ポートビラ
				WLG	ウェリントン	+12	クライストチャーチ

※この表は2000年12月現在作成のものです。
※時差はグリニッジ標準時（世界協定時：GMT）を基準としたものです。

アラーム・時報の使い方

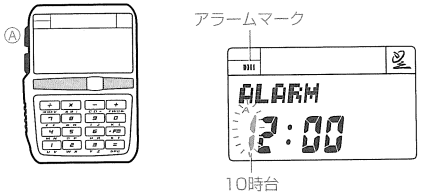
アラーム・時報のセットはアラームモードで行ないます。
アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると10秒間の電子音で知らせてくれます。また、毎正時（00分）に電子音で時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

1. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

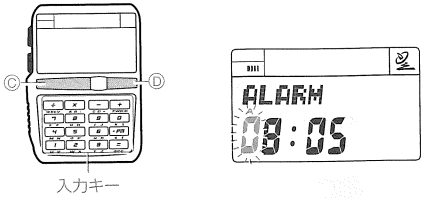
「10時台」が点滅します。
同時にアラームマーク（))))）が点灯します。



2. 時・分を入力する

入力キーを押します

時・分の4桁数字を続けて押します。



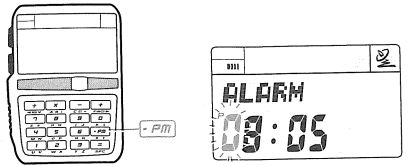
例）8時5分の場合 ➡ 0 8 0 5
12時40分の場合 ➡ 1 2 4 0

※入力キーを押すと自動的に10時台➡1時台➡10分台➡1分台と進みます。
※Ⓓ ボタンを押すと次の桁に進み、Ⓒ ボタンを押すと前の桁に戻ります。

午後をセットする場合は

·PM を押します

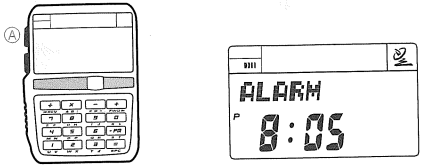
※ 押すごとに、午前と午後が切り替わります。
※ 時のセットのとき、午前／午後にご注意ください。
※ 時刻モードの現在時刻を24時間制表示にしているときは、セット時刻を24時間制で入力します。



3. セットを終了する

Ⓐ ボタンを押します

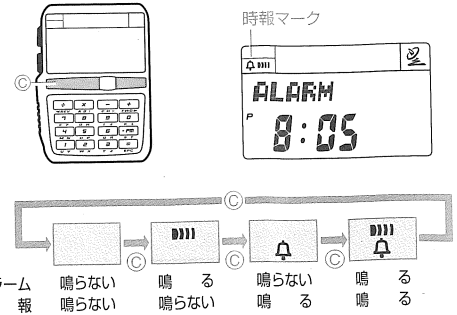
点滅が止まります。



※アラームモードのまま2～3分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

■アラーム・時報のオン／オフ

アラームモードでⒸボタンを押すごとに以下のようにアラーム・時報のオン／オフが切り替わります。



※アラームを鳴らしたいときは“))))”を、時報を鳴らしたいときは“🔔”を点灯させます。

●デモアラーム

アラームモードでⒸボタンを押している間、電子音が鳴ります。

●鳴っている電子音を止めるには

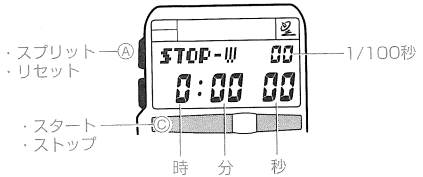
いずれかのボタンまたは入力キーを押します。

ストップウオッチの使い方

ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測でき、以後、自動的に0に戻って計測を続けます。

■計測のしかた

- Ⓒボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。
- 計測がストップしているときにⒶボタンを押すと、0時間00分00秒00（リセット表示）になります。
- 計測中にⒶボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリットタイム（途中経過時間）計測となります。

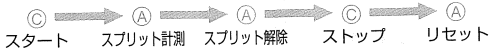


●通常の計測



＜積算計測＞
ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずにⒸボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム計測



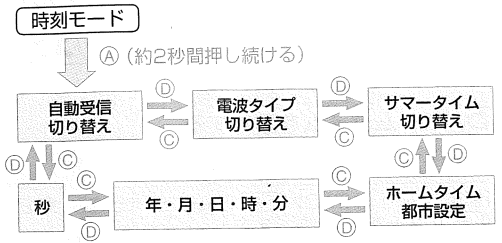
●1着・2着同時計測



ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等をセットします。
なお、時刻とカレンダーは、「自動受信オン」にしておくと自動的に正しく修正されますので、通常は修正する必要ありません。
電波受信ができないときや、「自動受信オフ」にしてあるときなどは、ここで説明する操作にしたがって合わせてください。

■セット内容



※Ⓓ・Ⓒボタンを押し続けると、早送りができます。
※「年・月・日・時・分」の間もⒹ・Ⓒボタンで送り／戻しができます。
※時刻モードの表示に戻すには、もう一度Ⓐボタンを押します。
※自動受信切り替えについては13ページを、電波タイプ切り替えについては14ページをご覧ください。
※自動受信切り替えと電波タイプ切り替え以外の操作を行ないますと、受信マーク“”が消えます。

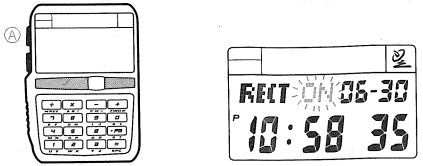
■セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき、

Ⓐボタンを約2秒間押し続けます

“ON”または“OFF”が点滅し、自動受信切り替えとなります。

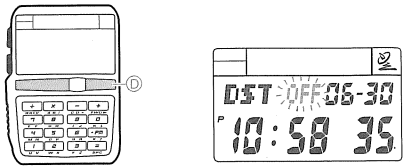


表示が点滅しているときにⒷボタンを押すと、12時間制表示（午前A／午後P）と24時間制表示が切り替わります。

2. サマータイム切り替えにする

Ⓓ ボタンを２回押します

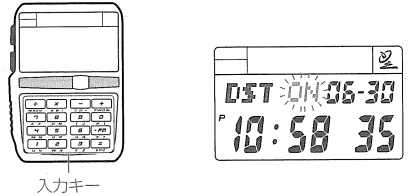
“ON” または “OFF” が点滅します。



3. 切り替える

入力キーを押します

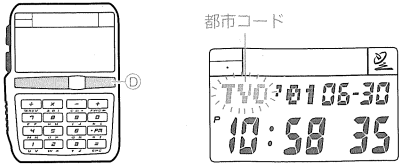
入力キーのいずれかを押すごとに、オン（ON）とオフ（OFF）が切り替わります。



4. ホームタイム都市設定にする

Ⓓ ボタンを押します

「都市コード」が点滅します。

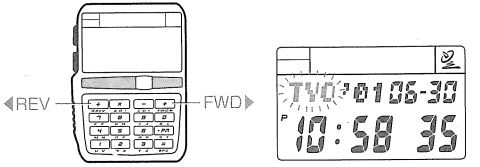


5. ホームタイムを設定する

◀REV キーまたは FWD▶キーを押します

「都市コード」は FWD▶（＋）キーを押すと進み、◀REV（÷）キーを押すと戻ります。

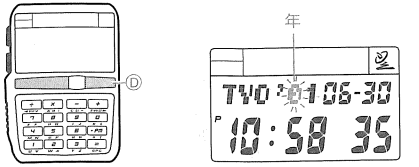
※表示される順番は、27 ページのワールドタイム都市一覧表をご覧ください。



6. 年のセットに切り替える

Ⓓ ボタンを押します

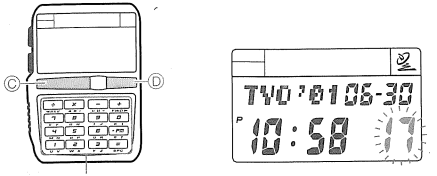
「年」が点滅します。



7. 年・月・日・時・分を入力する

入力キーを押します

「年・月・日・時・分」の 10 桁数字を続けて押します。



※入力キーを押すと、入力箇所（点滅箇所）が自動的に進みます。

※Ⓓ ボタンを押すと次の桁に進み、Ⓒ ボタンを押すと前の桁に戻ります。

入力について

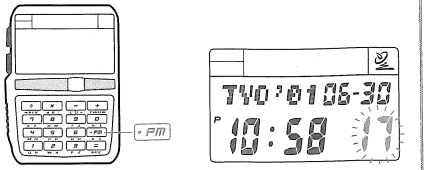
- 年は西暦下２桁を入力します。
- 時のセットのとき、午前／午後にご注意ください。
- 曜日は年月日を入力すると自動的にセットされます。

例）2001 年 6 月 30 日　午後 10 時 58 分の場合

0 1 0 6 3 0　　1 0 5 8

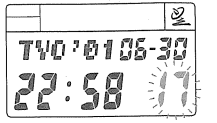
午後指定 •PM

※ •PM キーは時または分が点滅しているときに押します。押すごとに、午前と午後が切り替わります。



24時間制表示にしているときは、24時間制でも入力できます。

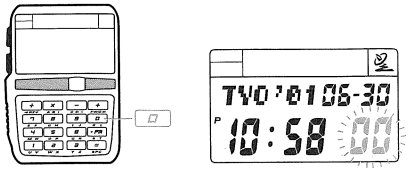
0 1 0 6 3 0　　2 2 5 8



8. 秒アジャストをする

D キーを押します

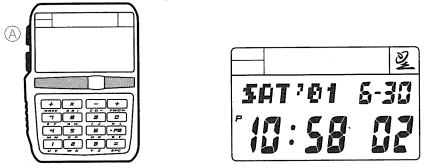
D キーを押すと、秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは1分繰り上がって「00秒」からスタートします。



9. セットを終了する

Ⓐ ボタンを押します

点滅が止まります。



※セット状態のまま2～3分すると、自動的に点滅が止まります。

★年月日は西暦で2000年1月1日～2099年12月31日までセットできます。
★カレンダーはうるう年および大の月・小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

サマータイムとはDST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
サマータイムの採用時期は都市により異なりますし、採用していない都市もありますのでご注意ください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
精　　度：電波受信による時刻修正が行なえない場合は、月差±15秒以内
基本機能：年・月・日・曜日・時・分・秒・午前(A)／午後(P)／24時間制表示
フルオートカレンダー(2000～2099年)
※ただし、電波受信によるカレンダー修正は2000～2039年までです。
電波時計機能：自動受信(午前2・4・6時)、手動受信、受信日時リコール付、受信オン／オフ切替、電波タイプ切替

受信電波＝長波標準電波JJY
周波数＝40kHz

テレメモ機能：名前＝8文字、電話番号＝12桁
最大150件までメモリー
自動ソート機能、イニシャルサーチ機能
計算機能：8桁加減乗除、四則定数、自乗、べき乗、概数計算
計算状態表示、操作確認音のオン／オフ
ワールドタイム機能：27都市29タイムゾーン
時・分・秒(秒は基本時刻と連動)
サマータイム切替機能付
アラーム機能：時刻アラーム
セット単位＝分　電子音＝10秒間
時報　毎正時に2回電子音で報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
計測範囲＝23時間59分59秒99
(24時間計)
通常計測、積算計測、
スプリット計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、
秒合わせ機能(±30秒アジャスト)、
ホームタイム都市設定、サマータイム切替、
アラームセット機能
その他：自動復帰機能、デモアラーム、
12/24時間制表示切替、ELバックライト
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、
ワンチップCMOS-LSI
使用電池：CR-2016(電池別途販売)
電池寿命：約2年
(1日あたり
電波受信を33分、ライト1.5秒、
電子音10秒使用した場合)

ご使用上の注意

■防水性

●表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○

※「BAR」は気圧の意味で、防水性の高さを表わします。
※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。

●表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されていないもの。
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
●防水構造の機種はシャワー程度の温水では使用できますが、入浴等で長時間使用することはお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的（2～3年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください（特殊な治具を必要とします）。
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

■バンド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。
●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単にふきとることができます。

■温度

●自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

■ショック

●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。

■磁気

●磁気の影響はありません。

■薬品類

●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保管

●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと、数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■ELパネル（表示照明部）の交換について

表示照明用として使用としているELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）は、長期間使用しますと明るさが弱くなり、光が暗く見えることがあります。このようなときにはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■抗菌防臭バンドについて

抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

電池交換について

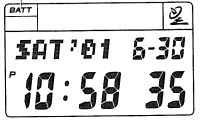
■最初の電池

● 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※ モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※ 電池交換の場合は保障期間内でも有料となります。

■消　　耗

● 電池が消耗しますと「時計の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」することがあります。
● 電池の消耗時期が近づきますと、電池切れ予告として、"**BATT**" マークが点滅します。このときは速やかに電池交換を行なってください。
● 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

BATTマーク



●電池の消耗時期が近づくと…

メモリーに記憶されているデータを保護するため、データ呼び出し、入力などのメモリーを使用する操作はできなくなるなど、以下の現象が現われます。

<テレメモモードのときは>
データ呼び出し、入力などの操作はできません（ボタン操作をしても、空ページ表示となります）。
なお、データ入力途中に電池が消耗すると、そのとき入力していたデータは記憶されません。

<その他>
アラーム・時報・操作確認音の報音、ライト点灯、電波受信（自動、手動）も行ないません。

■電池交換

電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。

■お客様へ

電池交換の際には、お店の方に必ずこのページをお見せください。

■ご販売店さまへ

本機の電池交換を行なう場合、以下の点にご注意ください。

●使用する電池は

電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

●電池交換前のご注意

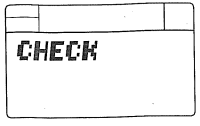
裏蓋を開けると液晶部に "OPEN" と表示されます。万一、液晶部に "CLOSE" と表示されているときは、電池を抜き取らず、裏蓋を閉じ、しばらくしてからあらためて裏蓋を開けるところから行なってください。なお、"CLOSE" 表示のときに電池交換を行なうと、データ内容が変化したり消えてしまうことがありますのでご注意ください。
※ 表示が消えているときは問題ありません。

●電池交換後のご注意

電池交換後、裏蓋を閉める前に、必ずオールクリアー（AC）操作を行なってください。
※ オールクリアー操作を行なっても、データが消えることはありません。
裏蓋を閉めた後 "OPEN" 表示が消えていることを確認してください（"OPEN" 表示のときは時計機能が制限されます）。

●電池交換のご注意

裏蓋を閉めた後、Ⓐ ボタン以外を押すと内部データをチェックするため、"CHECK" と表示されます（Ⓐ ボタンを押すとチェックが行なわれませんので、Ⓐ ボタンは押さないでください）。



チェック時間は、入力されている件数により最大5～6分かかることがあります。
なお、"CHECK" 表示のときにはすべての操作ができませんのでご注意ください。
内部データのチェックが終わると、正常に使用できます。

お手入れについて

■お手入れのしかた

● 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

● 金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

■お手入れを怠ると

●「サビ」

●ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。

※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。

●表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。

●「劣化」

●樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。

●「かぶれ」

●皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあり ます。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。

●万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。